

(6)国際交流・社会貢献・大学間連携の概要

①国際交流

本学では、アジアに開かれた都市福岡の大学として、日中韓の学術相互交流に積極的に取り組んでいます。

1) 崇義（スニイ）女子大学校（韓国ソウル特別市）

韓国の首都ソウル特別市にある崇義女子大学校（当時は崇義女子大学）とは、平成11年（1999年）9月10日平等互惠の精神に基づき、学生交流及び教職員の学術協力を推進し、一層の友好関係を促進する目的で「相互交流協定」を締結しました。

崇義女子大学校は、ソウルの中心明洞に近い南山の麓にあり、1903年創立の歴史ある学園です。現在は4系列16学科1課程からなる二年制（一部三年制）の総合大学です。

交流開始から約10年は、毎年10～20名の学生が交互に各大学を訪問し、伝統文化や料理体験、宿泊研修などを通じて親睦を深めました。

平成21年（2009年）には、精華学園100周年、学術交流10周年を記念して崇義女子大学より20名の学生および韓国総領事はじめ日韓の関係者を本学にお招きして、本学学生との記念公演が華やかに催されました。

その間、平成17年（2005年）からは協定に基づく交換留学生の受入れ、平成18年（2006年）からは短期間の日本語研修講座を提供し、基礎的な日本語の指導と日本文化の紹介などを行っています。

しかし、令和2年度（2020年度）は、新型コロナ感染の影響により協定校の留学プログラムが全面的に中止となりました。そのため、交換留学生の受け入れはありませんでした。また、例年6月に実施している崇義女子大学校の日本語研修講座も実施することができませんでした。そして、新型コロナ感染拡大は令和4年度（2022年度）まで終息を見せず、この状況が続きました。

令和5年度（2023年度）より新型コロナ感染状況が落ち着きを見せると同時に、第5類感染症へ移行しました。これにより、協定校の留学プログラムが全面的に復活し、令和5年度前期に2名の交換留学生を受け入れ、6月下旬から日本語研修講座も再開しました。

2) 厦門(アモイ)理工学院（中国福建省厦門市）

平成24年(2012年)2月23日、中国の厦門(アモイ)理工学院との相互交流協定を結び、早速その年の9月より交流を開始しました。次代を担う若い世代の人たちが、お互いの国と大学の教育・研究、文化などに触れて理解し、学びあうことには大変大きな意義があると言えます。

厦門市は、上海と香港のほぼ中間にあり、九龍江の河口付近に広がる港湾都市、海港風景都市として有名で、「世界一住みやすい都市」「国際花園都市」などと呼ばれていま

す。市区人口167万人、厦門市街地には約100万人が生活しています。

そんな風光明媚な都市に位置する厦門理工学院は、中国福建省と厦門市が1981年に共同で設立した公立四年制大学で、現在20の学部と47の学科等があり、学生数2万1千名以上、教員数1,000名を超える大きな大学です。国際交流も盛んで、本学を含む日本をはじめアメリカ、イギリス、カナダ、韓国、フィリピン、マレーシアなど20か国以上の大学との連携を保っている国際色豊かな大学です。

平成24年6月には、同学院より副校長先生をはじめとする訪問団が来学し、本学との親睦を深めました。そして、後期には協定に基づく交換留学生を前期後期1名ずつ受入れました。近年では令和元年度後期より暫定的に前期後期2名ずつ受入れています。

しかし、令和2年度（2020年度）以降、新型コロナ感染の影響により協定校の留学プログラムが全面的に中止となりました。そのため、交換留学生の受け入れはありませんでした。そして、新型コロナ感染拡大は令和4年度（2022年度）まで終息を見せず、この状況が続きました。

令和5年度（2023年度）より新型コロナ感染状況が落ち着きを見せると同時に、第5類感染症へ移行しました。しかしながら、中国政府のゼロコロナ対策により保護者の留学反対を受け、令和5年度の留学生はいませんでした。

3) 慶南（キョンナム）情報大学校（韓国釜山広域市）

慶南情報大学校は、1965年創立の日本でいう短期大学（2～4年課程）であり、情報通信工学を中心とした理工系の大学です。さらに看護や福祉、食品栄養や幼児教育、観光など医療・文化系の学部も充実した総合実践大学といえます。学生数は約7,000人ですが、同じ学校法人に大学院まで有する東西大学校とサイバー大学である釜山デジタル大学校を併設して、学園全体の学生数は約22,000人にも及びます。メインキャンパスは、釜山（金海）国際空港と市街中心地である西面（ソミョン）との中間地点で、地下鉄やバスなど交通の便もよいところにあります。

昨今、日本の若者は内向き志向で、外国への関心が薄いと言われます。本学でも先の2大学（崇義女子大学校・厦門理工学院）からは本学への留学希望が絶えず、本学も受入れに応えています。これまで本学からの留学希望はほとんどありませんでした。

そこで、福岡市から最も近い外国都市である韓国釜山広域市内に新たな交流協定校を設け、本学からも学生を派遣しやすい環境を整備することになりました。平成28年（2016年）7月、縁あって慶南情報大学校と国際交流協定を締結し、同年8月には早速本学から7名の「韓国語研修」学生を派遣しました。研修学生7名は、同校のキャンパス内で2週間にわたり韓国語学習や観光系列の授業見学、学生間交流など忙しい毎日を送りました。平成30年度（2018年度）後期には本学初の交換留学生を1名（生活総合ビジネス専攻）派遣し、翌令和元年度（2019年度）後期には3名（生活総合ビジネス専攻2名、幼児保育学科1名）を派遣しました。

しかし、令和2年度（2020年度）以降、新型コロナ感染の影響により協定校の留学プログラムが全面的に中止となりました。そのため、交換留学生の受け入れはありませんでした。また、本学においても、学生の安全ため同年3月から6月に派遣を予定していた幼児保育学科1名の学生の派遣を中止し、同年9月から12月までの学生派遣を全面的に中止しました。そして、新型コロナ感染拡大は令和4年度（2022年度）まで終息を見せず、この状況が続きました。

令和5年度（2023年度）より新型コロナ感染状況が落ち着きを見せると同時に、第5類感染症へ移行しました。これにより、協定校の留学プログラムが全面的に復活し、令和5年度前期に1名の交換留学生を受け入れ、一方、本学でも令和5年度（2023年度）後期に、慶南情報大学校への学生派遣を再開しました。令和5年度（2023年度）後期は生活総合ビジネス専攻より1名の交換留学生を同年9月から12月まで派遣しました。

そして、交換留学生不在のため中止しておりました「留学生のための日本語講座」を令和5年度（2023年度前期）に再開することができました。

また、令和元年度（2019年度）企画の学生の海外派遣を令和2年度（2020年度）へ延期しましたが、新型コロナ感染拡大終息の目途が立たず中止となり、その際の学生からの預かり金は全て返金しました。本企画は令和5年度（2023年度）まで実行できませんでしたが、令和6年度（2024年度）8月末に韓国崇義女子大学校との国際交流プログラムを推進しております。

ようやく新型コロナ感染拡大が落ち着いてきましたので、全協定校に対し安心安全を確保しつつ留学という学びの場を提供するため、次年度向け交換留学生のための情報提供サイトを更新しています。

<http://std.seika.ac.jp/students/siec/>

②地域貢献

仏教精神に基づく建学の精神の柱である『誠・和・愛』の教育理念のもと、大学の重要な使命である「開かれた学びの場」の具現化の一つとして、平成15年度にエクステンションセンターを設置しました。このセンターは、学生及び社会人等に対して、対学内サービスとしての正課外教育及び対学外サービスとしての大学開放教育を実施することを目的としています。従来「公開講座」、「ブラッシュアップセミナー」と称して実施してきた正規授業科目以外の教育プログラムを組織替えし、平成15年度から正課外講座として、これまで培った教育のノウハウや研究の蓄積を駆使した実践的で分りやすい内容の様々な講座を開講してきました。

また、本学が春日市との境界に位置していることから、平成23年12月に春日市教育委員会と「包括的連携協定（教育交流協定）」を結び、春日市との連携を図っています。平成28年12月には、南区大学連絡会議構成校（7大学・短大）の一員として福岡市南区と「包括連携協定」を結び、福岡市南区との連携も図り、地域に根ざしたコミュニティカレッジを目指しています。

地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業等について令和5年度は、下表の講座等を予定、実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった講座がありました。

令和5年度の地域社会に向けた正課外講座等の実施状況は以下のとおりです。

講 座 名		日 程	時間数	人数	備 考
正 課 外 講 座	コミュニティオーケストラ	令和5年4月～ 令和6年3月	120	61	
	「弦楽器を奏でよう！」 講座	令和5年4月～ 令和6年3月	24/人	20	
	「管楽器を奏でよう！」 講座	令和5年4月～ 令和6年3月	24/人	2	
	精華パティシエ学級	令和5年6月17日 令和6年2月3日	8	23	
	親子食育講座	令和5年8月7日	4	45	小学生の親子対象
	クッキングセミナー	令和5年12月2日	4.5	6	
	夏休み！キッズプログラミング教室	令和5年8月5日	2	8	

講座 成果 の 発表	コミュニティオーケストラ 第 11 回キャンパスコンサート	中止(※1)	—	—	
	コミュニティオーケストラ 第 18 回定期演奏会	令和 5 年 11 月 26 日	2	58	会場：アクロスシンフォニーホール

※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等との交流活動を行っています。

令和 5 年度の活動は以下のとおりです。

活 動	日 程	備 考
子どもスポーツ広場(幼児保育学科教員)	令和 5 年 10 月 22 日	会場：本学
認知症キャラバンメイト 講座を専攻科保育福祉専攻教員が担当	令和 5 年 7 月 12 日	会場：本学
南区出前講座(大学版)実施 ・「生活習慣と医療・介護～ずっとこの生活を、この町で～」(専攻科保育福祉専攻教員)	令和 5 年 9 月 2 日	会場： ・筑紫丘公民館(福岡市南区)
「南区こども大学 2023」講座実施 ・「親子食育講座」(食物栄養専攻教員) ・「夏休み！キッズプログラミング教室」(生活総合ビジネス専攻教員) ・「自然に触れよう！作って楽しいアロマワックス」(幼児保育学科学生・教員) ・「ふれてみよう、ためしてみよう ～はじめての介護体験～」(専攻科福祉専攻教員・学生)	令和 5 年 8 月 7 日 8 月 6 日 8 月 11 日 8 月 7 日	会場：本学
宮竹公民館(宮竹校区社会福祉協議会)活動への学生、教員の参加・講座実施 ・「交流ルーム」クリスマスコンサート実施(幼児保育学科学生・教員)	令和 5 年 9 月 14 日 12 月 13 日	会場：宮竹公民館(福岡市南区)
専攻科福祉専攻による「「ふくおかカイゴつながるプロジェクト 2023」参加」への学	令和 5 年 10 月 7 日	会場：福岡市役所西側ふれあい広場

生、教員の参加		リアル&オンライン 開催
食物栄養専攻教員による講演実施 春日市立春日北中学校「食育講演会」	令和5年11月27日	会場： 春日北中学校（春日市）
那珂川市立那珂川北中学校「食育講演会」 「中学生期にとっての食」	令和5年12月4日	那珂川北中学校（那珂川市）
福岡県地域医療介護総合確保基金「介護の魅力を発信する介護講座」を専攻科保育福祉専攻教員が担当 テーマ ・「健康寿命と食生活習慣（座談形式）」 ・「健康寿命を続ける 食事・運動・認知症へのおもい」 ・「健康寿命と介護予防 ロコモーションシンドロームについて ロコモ体操など」 ・「生活習慣と医療・介護 〜ずっとこの生活を、この町で〜」 ・「健康寿命と介護予防 ロコモーションシンドロームについて ロコモ体操など」 ・「健康寿命と介護予防 ロコモーションシンドロームについて タオル体操」 ・「健康寿命と介護予防 ロコモーションシンドロームについて タオル体操」 ・「日常生活での介護予防について タオル体操」	令和5年7月1日 令和5年9月11日 令和5年10月14日 令和5年10月15日 令和5年10月20日 令和5年10月29日 令和5年11月5日 令和5年2月15日	会場：サニディ（福岡市南区） 会場：三築公民館（福岡市博多区） 会場：サニディ（福岡市南区） 会場：イオン稲穂ショッピングセンター 会場：日の出町公民館（春日市の出町） 会場：北九州ココルク平野（小倉市） 会場：福岡市 博多（福岡市南区） 会場：壱岐公民館（福岡市市区）

③大学間連携

短期大学コンソーシアム九州は、地域に密着し、地域の中堅層の人材育成に貢献する短期大学の役割と機能の明確化と強化を目指し、近接する北部九州の7つの短期大学（2023年3月31日現在:香蘭女子短期大学、佐賀女子短期大学、長崎女子短期大学、長崎短期大学、西九州大学短期大学部、九州龍谷短期大学、精華女子短期大学）が、これまで培ってきた緊密なネットワークの下にコンソーシアムを形成して下記の共同事業に取り組んでいる。

1. 短大教育の到達目標の設定
2. 独自の初年次教育や教養教育の開発
3. 高校 - 短大間連携事業
4. 教職員を対象とする FD/SD 活動の推進
5. 地域ニーズに即応する人材養成プログラムの開発
6. 社会人基礎講座の共同開発
7. 在学生・卒業生のキャリア支援事業

これら短大教育の質保証を目指す多種の連携活動を通じて、短大教育の機能と役割について、地域との関係性という視点から整理し、短大教育の再生に向けての一定の結論に到達することを課題としている。

また、平成24年には文部科学省に「大学間連携共同教育推進事業」として採択された5年間の「短期大学士課程の職業・キャリア教育と共同教学IRネットワーク」終了後、これらの事業を引き続き短期大学コンソーシアム九州において展開することとなった。

そこでは、①短期大学士課程教育の質保証システムの汎用的なモデルとなる共同教学IRネットワークシステム構築とアセスメントを含む運用スキームの整備、②短期大学独自の職業・キャリア教育の充実と発展のために職業統合的学習(Work Integrated Learning)に関する国内外の知見、情報の集約、③他学科短大の学生の社会人基礎力を培うべく、共同で地域ステークホルダーとの交流を通してアクティブラーニング事業を展開しており、現在も継続している。

2023年度の活動内容は以下のとおりとなっている。

1. 例年と同様2023度においても「在学生調査」「卒業時調査」を実施した。共同教学IRの活用として、他大学とともに調査結果を分析することが進められた。
2. JCCK20周年フォーラム

3月21日、佐賀女子短期大学でJCCK20周年フォーラムが開かれた。それに合わせ、紀要も20周年記念号(短期大学コンソーシアム九州紀要『短期高等教育研究』)として発行。

3. JKKC 事業推進会議から「令和 6 年度以降の JKKC 学生アクティビティ部会活動案」として組織案と学生アクティビティ部会を提案した。内容としては ①学生スキルアップ、②学生交流、③共同授業の開発などを中心として検討する。